

ひろたはちまんぐう だいぐうじ 広田八幡宮・大宮寺

所在地：南あわじ市広田



広田八幡宮

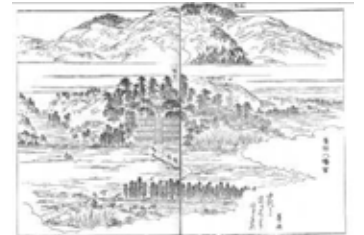


大宮寺

出典：一般社団法人淡路島観光協会HP



広田梅林



淡路國名所図絵「廣田八幡宮」

広田八幡宮は、明治 32 年の火災により本殿などを消失しましたが、4 年後に再建され現在に至ります。春には、五穀豊穡を祈願した祭りが行われ、青年団による勇壮な獅子舞、曳きだんじりや神輿が町内を巡ります。

広田八幡宮に隣接して、大宮寺があります。さつきの花所であるとともに、裏山に天明志士の碑があることから多くの巡礼者が訪れます。

また、広田八幡宮の北側には、淡路島を代表する梅林である広田梅林もあります。約 5,000 m²の敷地に 2 種類の梅が約 300 本植えられており、2 月には丘陵地一面にピンク色の花が咲き誇ります。

【景観の特徴】

- 自然がつくりだす景観
- ✓ 歴史がつくりだす景観
- ✓ 生活・文化がつくりだす景観
- 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道洲本 IC から、国道 28 号、県道 125 号線へ。車で約 15 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図

ひろたちく のうち なが あわじ ふじ せんざん
 広田地区の農地から眺める淡路富士・先山

所在地：南あわじ市 中条



南あわじ市中条から望む先山



洲本市新村から望む先山



絵葉書「洲本中学後方に見える先山」
提供：成錦堂



淡路國名所図絵「先山」

先山は、別名「淡路富士」と呼ばれ、諭鶴羽山、柏原山とともに「淡路三山」と呼ばれています。国生み神話で伊弉諾尊（イザナギノミコト）と伊弉冉尊（イザナミノミコト）の二神が、国生みの際に最初につくった山であると言い伝えられていることから、「先山」という名前がつけられました。淡路島中部にある先山山地の最高峰（標高 448m）は、洲本市、南あわじ市の市内各所から望むことができるランドマークとなっています。特に、洲本市大野新村から望む先山は、洲本市八景にも選ばれています。

- 【景観の特徴】
- ✓ 自然がつくりだす景観
 - 歴史がつくりだす景観
 - 生活・文化がつくりだす景観
 - 新しくつくりだす景観

【アクセス】 代表地点：南あわじ市中条へは
 神戸淡路鳴門自動車道洲本ICから国道28号を南あわじ市方向へ。久次米の交差点を南下。車で20分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

はつおがわ 初尾川ダム

所在地：南あわじ市 中条中筋



初尾川ダム 全景



ダム堤

出典：財団法人淡路島くうみ協会 HP



ダム堤

出典：淡路島・洲本川流域読本



洪水吐

出典：淡路島・洲本川流域読本

昭和 40 年 9 月 9 日から 17 日にかけて、淡路島の年間雨量の約半分が降るとい記録的な集中豪雨がありました。これにより当時の 3 つの貯水池が決壊し、川幅の狭い初尾川をはじめ、洲本川が瞬時にあふれ下流域は甚大な被害を受けました。

地元と県は、二度とこのような災害が起こらないよう、また、効率的な水利運用を図れるよう、コンクリートダムの建設に着手しました。その結果、昭和 43 年（1968）に完成した重力式コンクリートダムが、初尾ダムです。農業の命ともいえる水源の確保が実現され、農家は餅をついて初尾ダムの完成を祝いました。現在も、水源としての役割を果たすとともに、春には桜、秋には紅葉と淡路島の四季の移ろいを感じることができる憩いの場として、人々に親しまれています。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - 歴史が作りだす景観
 - ✓ 生活・文化が作りだす景観
 - 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道洲本 IC から国道 28 号へ、久次米交差点を左折。車で 30 分。



地図出典：国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 地形図

ひろたちく えびすじんじゃ 広田地区の蛭子神社

所在地：南あわじ市 広田中筋



茅の輪くぐり 出典：一般社団法人淡路島観光協会HP

蛭子神社は、広田地区で昔から尊信の厚い神社です。1573年から1592年の天正年間には、淡路国主・脇坂公が深く帰依するところとなり、一時は宏大にして荘厳華麗な社殿を造営したといわれています。

また、江戸時代には、恵比寿神が大阪の仏師の夢枕に立ち「蛭子神社の祭神にせよ」と告げたという伝承もあります。

蛭子神社では、毎年1月10日には十日戎、7月31日の夏祭りが行われます。特に、夏祭りは「輪ごせ祭」と呼ばれ、厄払いに「茅の輪くぐり」という行事があります。

- 【景観の特徴】
- 自然がつくりだす景観
 - ✓ 歴史がつくりだす景観
 - 生活・文化がつくりだす景観
 - 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道洲本IC下車、国道28号を南西に進み、広田交差点で左折。車で約10分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

かんのうじ 感応寺

所在地：南あわじ市 倭文土井



感応寺本殿 出典：一般社団法人淡路島観光協会 HP

感応寺は、感応寺山の頂上にある名刹で、別名を松尾山感応寺ともいいます。高山参りの名所として古くから親しまれています。

奈良時代の天平年間に、名僧行基が当地に伽藍を建て、自ら刻んだ観音像を安置したのがはじまりと伝えられています。元中5年(1338)の大火により、感応寺の伽藍は全焼しましたが、観音像は雲に乗って三原川の浜辺に逃れ、無事であったという伝説があります。観音像が発見された旧西淡町松帆には、松帆感応寺が建立されています。

旧緑町一体を望むことができる感応寺山頂へは、県立淡路ふれあい公園から登山道が続いており、気軽にハイキングを楽しみながらいくことができます。

【景観の特徴】

- 自然がつくりだす景観
- ✓ 歴史がつくりだす景観
- 生活・文化がつくりだす景観
- 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車洲本ICから国道28号を南下、広田交差点を右折、車で30分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

へびまつり
蛇祭

所在地：南あわじ市 倭文安住寺



蛇祭り 出典：一般社団法人淡路島観光協会HP

南あわじ市が誇る奇祭「蛇祭」は、安住寺を中心に毎年1月11日に行われます。

蛇祭の起源は、1470年頃で、農作物を荒らして住民に射殺された大蛇（大蛇退治伝説）の供養祭として行われています。

稲ワラで作った長さ約12m、胴回り約30cmの大蛇が町内を練り歩き、人や車に巻き付くという祭です。大蛇に巻き付かれた人やものは、1年を無病息災、無事に送ることができると伝えられています。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - 歴史が作りだす景観
 - ✓ 生活・文化が作りだす景観
 - 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道洲本IC下車、県道472号を北西に進む。車で約15分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

ながたけじゅうたく
永田家住宅

所在地：南あわじ市 倭文長田



主屋 出典：文化庁



離れ座敷 出典：文化庁



池石積 出典：文化庁



家具蔵 出典：文化庁

永田家住宅は、明治中期に建てられた淡路島の近世民家形式を伝える大型住宅で、平成 23 年（2011）に国登録有形文化財に指定されました。

登録の対象となったのは、主屋、離れ座敷、池石積、家具蔵などの9件です。主屋は、木造二階建てで、柱を取り外し大広間として利用できる工夫がされています。また、離れ座敷は、寄棟屋根の開放的な造りの接客施設となっています。住宅前にある石積みの池川には、洋風の木製手すりがついた濡縁が張り出しており風情を感じさせます。

永田家住宅にあるどの建築物にも淡路瓦が葺かれており、重厚な屋敷の景観をつくりだしています。

- 【景観の特徴】
- 自然がつくりだす景観
 - 歴史がつくりだす景観
 - ✓ 生活・文化がつくりだす景観
 - 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道洲本 IC から国道 28 号、県道 125 号線へ。車で約 20 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図

まつほちくじばさんぎょうかわらづく
松帆地区 地場産業の瓦造りとともにある暮らし

所在地：南あわじ市 松帆



慶野松原 鬼瓦を使ったアート作品

「いぶし瓦の天日干し」南あわじ市 道上浩行氏撮影
(第1回淡路島景観フォトコンテスト
審査員特別賞受賞作品)

麓公園

出典：財団法人淡路島くにうみ協会 HP

淡路瓦は、慶長15年(1610)ごろ、姫路城主の池田三左右衛門輝政が淡路島を拝領し、三男忠雄に岩屋城を修築、由良城を普請させた際、播州瓦の名工・清水理兵衛とその息子弥右衛門を呼び寄せ瓦を焼かせたのが起源であると言われています。

旧西淡町津井を中心に発展し、特に明治初期から一般民家への需要が急速に伸びました。当時の津井では、総戸数800中300戸が瓦の仕事に関わり、国内有数の産地に発展しました。

現在も、淡路瓦をふんだんに使った入母屋造り本瓦葺き民家の景観は島内各所で見られ、淡路島特有の風土が醸しだす地域固有の景観として見る人を魅了しています。また、近年では、淡路瓦を現代建築や緑化資材、アートなどの分野に活用するなど新たな取り組みも行われています。

- 【景観の特徴】
- 自然がつくりだす景観
 - 歴史がつくりだす景観
 - ✓ 生活・文化がつくりだす景観
 - 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原ICから県道31号線を北上、車で15分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

たきがわき ねんびじゅつかん ぎょくせいかん
滝川記念美術館・玉青館

所在地：南あわじ市 松帆西路



滝川記念美術館・玉青館

滝川記念美術館・玉青館は、南あわじ市松帆西路にあり、淡路島で育った現代南画の第一人者、直原 玉青氏（じきはら ぎょくせい）の個人美術館です。

日本初の現代南画の美術館であり、中国の故宮博物館を模した建物で、1991年に開館しました。直原玉青の代表作「禅の牧牛 うしかひ草」や、八角楼閣の天蓋部分に描かれた直径5mの「雲龍図」をはじめとする現代南画の名作を多数収蔵・展示しています。

- 【景観の特徴】
- 自然がつくりだす景観
 - 歴史がつくりだす景観
 - 生活・文化がつくりだす景観
 - ✓ 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原ICから県道31号線を北上。車で約10分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

こくせいぜんじ 国清禅寺

所在地：南あわじ市 松帆西路



国清禅寺の境内 出典：一般社団法人淡路島観光協会HP

国清禅寺は、黄檗宗の禅寺であり、淡路島出身の日本南画の第一人者・直原玉青氏（じきはら ぎょくせい）の尽力により約30年前に再興されました。

四月になると、白い壁に囲まれた庭に約60種400株のボタンが大輪の花をいっせいに咲かせることから、あわじ花けんろの第37札所に選ばれています。

国清禅寺には、直原画伯の作品を展示した玉青館も併設されており、南画の美の世界に触れることもできます。

【景観の特徴】

- 自然が作りだす景観
- ✓ 歴史が作りだす景観
- 生活・文化が作りだす景観
- 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原ICから県道31号線を北上。車で約10分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

いらかこうえん
麓公園

所在地：南あわじ市 松帆西路



「真価の歴史四百年」 南あわじ市 前田尋美氏撮影 (第2回淡路島景観フォトコンテスト 応募作品)

瓦の町として広く知られる西淡地区では、町内の家屋はもとより様々な施設に、約1200年の歴史を誇るいぶし銀色の「淡路瓦」が使用され、各地で瓦を使ったアート作品が見られます。

西淡三原ICそばに位置する麓公園は、観光客の休息の場であり、そして淡路瓦の魅力を島内外へ発信する場でもあります。公園の象徴でもある瓦のモニュメント・青海波ピラミッドは、約7万枚以上の瓦が積み上げられた大作で、淡路の山なみをイメージして、著名な写真家であり「カワラマン」でもある山田脩二氏の製作によるものです。他にも様々な技法で淡路瓦を使った施設が見られます。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - 歴史が作りだす景観
 - ✓ 生活・文化が作りだす景観
 - ✓ 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原IC下車すぐ。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

みはらがわかこう まつほしょうがっこう 三原川河口と松帆小学校

所在地：南あわじ市 松帆高屋



三原川と松帆小学校校舎



三原平野と松帆小学校校舎



松帆小学校校舎

松帆小学校は、三原川河口沿いにあり、三原平野の田園景観のランドマークとなっています。
また、松帆小学校では、子どもたちは松帆地区の歴史や文化を知識として得るだけでなく、地区に暮らす人々の想いを、目で見て、耳で聞いて、肌で感じられる授業「地域を知ろう」にも取り組まれています。

【景観の特徴】

自然がつくりだす景観

歴史がつくりだす景観

✓ 生活・文化がつくりだす景観

✓ 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原 IC から県道 31 号線、
県道 125 号線へ。車で約 20 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図

きくかわけじゅうたく
菊川家住宅

所在地：南あわじ市 湊里



菊川家住宅 出典：兵庫県

菊川家住宅は、平成 20 年（2008）に兵庫県景観形成重要建築物に指定されました。

菊川家住宅は、寛政 3 年（1791）ごろの淡路國名所図絵に記録が残っている由緒ある建物で、江戸時代には庄屋屋敷、明治時代には村役場に利用された地域を代表するシンボリックな建物です。

また、その敷地は戦国時代の安宅氏の城跡でもあり、堀跡、やぐら跡も確認できます。中には樹齢約 400 年のクロガネモチが広く根を張っています。

菊川家住宅は、歴史的・文化的価値に加え、城郭の樹木を背景にした建築物の景観が地域の特徴的な景観をつくりだしています。

- 【景観の特徴】
- 自然がつくりだす景観
 - ✓ 歴史がつくりだす景観
 - ✓ 生活・文化がつくりだす景観
 - 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原 IC から県道 31 号線、県道 25 号線へ。車で約 15 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図

いびかいがん いび むら 伊比海岸、伊比うずしお村

所在地：南あわじ市 阿那賀



「周航を待つ舟」兵庫県豊岡市 竹内孝広氏撮影（第1回淡路島景観フォトコンテスト 審査員特別賞受賞作品）

伊比海岸は、うず潮で知られる鳴門海峡に面した海岸です。伊比港から出航する鳴門海峡観潮船「ヘリオス」に乗船すると、鳴門海峡の激流が豪快に渦巻く様子を楽しむことができます。

伊比うずしお村は、伊比海岸や鳴門海峡の豊かな自然環境や風光明媚な景観を楽しめるよう平成12年にオープンした、キャンプや海水浴、バーベキュー、釣りなどが楽しめる施設です。伊比海岸の魅力を目的に、伊比うずしお村へは四季を通じて釣り客や観光客が訪れ賑わいます。

- 【景観の特徴】
- 自然がつくりだす景観
 - 歴史がつくりだす景観
 - ✓ 生活・文化がつくりだす景観
 - ✓ 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道淡路島南IC下車、県道25号を北西に進む。車で約10分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

まるやまうみづ こうえん
丸山海釣り公園

所在地：南あわじ市 阿那賀



丸山海釣り公園

丸山海釣り公園は、鳴門海峡に面した丸山漁港内にある弁天島の周囲 250mを釣り場とした公園です。釣り場へは、アーチ型の太鼓橋を渡っていくことができます。鳴門海峡に面する絶好の釣りポイントとして多くの釣り客が訪れます。

丸山海釣り公園は、釣りだけではなく、大鳴門橋や夕日など四季折々の景観を満喫できるため、観光スポットとしても賑わっています。

- 【景観の特徴】
- ✓ 自然が作りだす景観
 - 歴史が作りだす景観
 - 生活・文化が作りだす景観
 - ✓ 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道淡路島南ICから県道25号線を北上。車で約20分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

さくらがおかこうえん さくら
桜ヶ丘公園の桜

所在地：南あわじ市 阿那賀



桜ヶ丘公園は、鳴門海峡を見下ろす高台にあり、眺望と桜の名所として知られています。

終戦直前の昭和20年8月2日、鳴門海峡宝塚海軍航空予科練生を乗せた船が、対岸の撫養港より阿那賀港に向かって航行中、鎧崎沖で敵襲を受け、82名の少年の尊い命がこの海に散ってしまいました。

丘の上には、この銘碑と、慈母観音が静かに佇み、春には満開の桜が墓霊を慰めています。

- 【景観の特徴】
- ✓ 自然がつくりだす景観
 - 歴史がつくりだす景観
 - 生活・文化がつくりだす景観
 - ✓ 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道淡路島南IC下車、県道25号線を北上、車で約15分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

かすがでら 春日寺

所在地：南あわじ市 阿那賀



春日寺 本堂

春日寺は、大日如来像を本尊とする古刹で、淡路島十三仏霊場の一つとして老人の守本尊である弥勒菩薩もお祀りしています。境内正面に本堂が建ち、すぐ近くにはなでると病気が治るといふ「おなでほてい」や、「仏足石」があります。

寺に伝わる涅槃図（南あわじ市指定文化財）は、室町時代初期に描かれたと伝えられており、朝鮮出兵の際に持ち帰ったものではないかとの説もあります。毎年二月十五日の涅槃会には、この絵を拝観することができます。また、春日寺は、淡路島十三仏霊場の第六番となっています。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - ✓ 歴史が作りだす景観
 - 生活・文化が作りだす景観
 - 新しく作りだす景観

【アクセス】

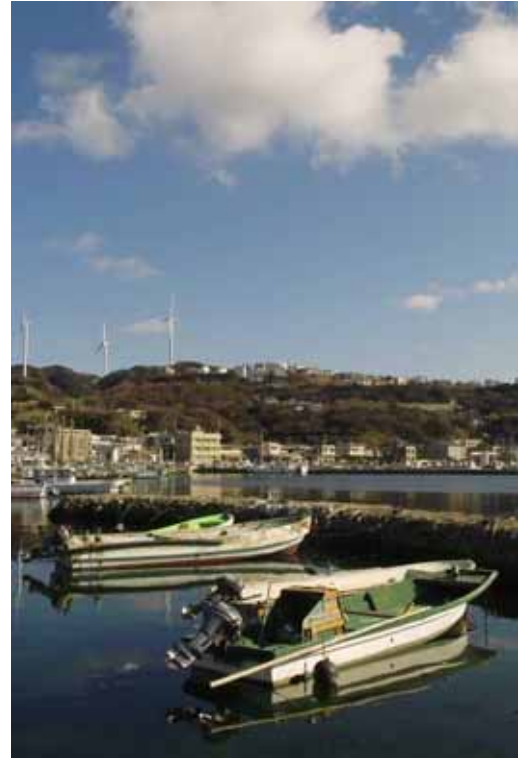
神戸淡路鳴門自動車道淡路島南 IC 下車、県道 25 号線を北上、車で約 15 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図

まるやまぎょこう
丸山漁港

所在地：南あわじ市 阿那賀



丸山漁港

丸山漁港は、「御食国（みけつくに）」といわれ、古来より朝廷に食物を献上していた淡路島のなかでも、漁獲高の多い漁港です。特に丸山港でとれた鯛は「献上鯛」といわれ、大正・昭和・平成と三代にわたって天皇陛下に献上されたことで有名です。また、養殖も盛んで、鳴門ワカメやノリの養殖場もあります。

丸山漁港からは、鳴門海峡と鳴門大橋を望むことができ、淡路島南部の丘陵地、鳴門海峡、風車や丸山漁港などの新しい建築物が一体となった景観を望むことができます。

- 【景観の特徴】
- ✓ 自然が作りだす景観
 - 歴史が作りだす景観
 - 生活・文化が作りだす景観
 - ✓ 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道淡路島南 IC 下車、県道 25 号線を北上、車で約 20 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図

ついのみなと 津井港

所在地：南あわじ市 津井



津井港

淡路瓦は、慶長 15 年（1610）ごろ、姫路城主の池田三左右衛門輝政が淡路島を拝領し、三男忠雄に岩屋城を修築、由良城を普請させた際、播州瓦の名工・清水理兵衛とその息子弥右衛門を呼び寄せ瓦を焼かせたのが起源であると言われています。

明治初期から一般民家への需要が急速に伸び、当時の津井地区では、総戸数 800 中 300 戸が瓦の仕事に関わる国内有数の産地に発展しました。その主な要因は、良質の安定した粘土が豊富にあったこと、江戸時代に築港された津井港から京阪神へ安価な海上輸送で運べたからでした。

津井港では、その昔、余った瓦を海に捨てていました。浜には、波にもまれ丸くなった瓦がたくさん打ち上げられており、現在も操業されている瓦工場とともに、地域の生業を感じさせる景観が広がっています。

- 【景観の特徴】
- ✓ 自然が作り出す景観
 - ✓ 歴史が作り出す景観
 - ✓ 生活・文化が作り出す景観
 - ✓ 新しく作り出す景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原 IC より、県道 31 号を北上し、県道 25 号を西に、車で約 10 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図

まとい ぎ つ い か ず が じ ん じ ゃ 的射の儀 津井春日神社

所在地：南あわじ市 津井



的射の儀 出典：一般社団法人淡路島観光協会HP

津井春日神社は、南あわじ市津井に鎮座しています。

毎年4月第3日曜日の前日におこなわれる例大祭では、的射の儀が披露されます。的射の儀とは、津井地区の悪霊退散と五穀豊穰、家内安全を祈願する古式豊かな神事で、市指定無形民俗文化財に指定されています。

津井地区で江戸時代から大切に継承されてきた神事で、桜の花が舞うなか、毎年、地区の若者が的に矢を射ます。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - ✓ 歴史が作りだす景観
 - ✓ 生活・文化が作りだす景観
 - 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原ICから、県道31号線、県道25号線へ。車で約30分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

いそ おじんば磯

所在地：南あわじ市 津井



「おじんば」兵庫県神戸市 齋藤明裕氏撮影（第2回淡路島景観フォトコンテスト 応募作品）

津井港の側にある登立海岸から、播磨灘を左にみながら県道 25 号線を北上すると「おじんば磯」という巨石が現れます。

この巨石は、長寿の老人夫婦が手を取り合っている姿に見えることから「おじんば磯」と呼ばれ、地域の方に親しまれています。また、おじんば磯の足下には、登立明神が祀られており、地区の守り神として大切に祀られています。

- 【景観の特徴】
- ✓ 自然がつくりだす景観
 - 歴史がつくりだす景観
 - 生活・文化がつくりだす景観
 - 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道淡路ICから県道 31 号線を左折し、県道 25 号線へ。車で約 20 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図

おか うえ たつ み しょうがっこう
 丘の上の辰美小学校

所在地：南あわじ市 津井



辰美小学校 校舎 出典：辰美小学校HP

辰美小学校は、南あわじ市の北西部に位置し、平成 17 年に市の発足直後に津井・丸山・阿那賀・伊加利小学校の 4 校が統合し誕生しました。

津井地区は、鳴門海峡や瀬戸内海という風光明媚な景観を持ち、小高い山の中に農地が広がり、自然環境に恵まれています。辰美小学校の校舎は、淡路瓦葺きのモダンなデザインとなっており、津井地区のランドマークとして親しまれています。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - 歴史が作りだす景観
 - ✓ 生活・文化が作りだす景観
 - ✓ 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原 IC から県道 31 号線を左折し、県道 25 号線へ。車で約 25 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図

りく みなとせいだん
陸の港 西淡

所在地：南あわじ市 志知鉦



陸の港西淡

陸の港 西淡は、高速バス、島内公共交通のバスターミナルとして南あわじ市の玄関口としての役割を担っています。

淡路瓦が伝統産業である旧西淡町をイメージし、いぶし銀を基調としたデザインとなっており、ターミナル周辺には淡路瓦を用いたモニュメントも設置されています。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - 歴史が作りだす景観
 - 生活・文化が作りだす景観
 - ✓ 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原 IC から県道 31 号線、
県道 477 号線を右折。車で約 10 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図

くまのじんじゃ はんさんじ
熊野神社と飯山寺

所在地：南あわじ市 志知飯山寺



熊野神社と飯山寺

淡路島の社寺仏閣の特徴は、神仏習合を基本として神社とお寺が隣接して建てられていることです。志知飯山寺地区も同様に、熊野神社と飯山寺が寄り添うように建てられています。熊野神社と飯山寺は、古くから安産の神様として地域の方はもとより遠方から多くの方がお参りにこられます。

志知飯山寺地区に安産の神様が祀られる由来としては、かつては、コウノトリの飛来地であったことも伝えられています。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - ✓ 歴史が作りだす景観
 - ✓ 生活・文化が作りだす景観
 - 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原 IC から県道 31 号線、
県道 477 号線を右折。車で約 15 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図

みょうせんじ

妙泉寺のソテツ

所在地：南あわじ市 志知南



妙泉寺のソテツ

妙泉寺は、志知南地区に鎮座する華宗本門流のお寺です。

境内には、2株のソテツの巨木があり、伽藍などの神聖な空間に緑の彩りを与えています。ソテツは樹齢800年といわれ、妙泉寺には多くの参拝客が訪れます。

- 【景観の特徴】
- ✓ 自然が作りだす景観
 - ✓ 歴史が作りだす景観
 - 生活・文化が作りだす景観
 - 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原ICから県道31号線、県道477号線を右折。車で約10分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

こ え な み ふ ち ゆ う じ ん じ ゃ お ど 小榎列府中神社のささら踊り

所在地：南あわじ市 榎列小榎列



府中神社のささら踊り 出典：兵庫県立歴史博物館HP

府中神社では、毎年9月4日にささら踊りが奉納されます。まず、当日の朝に、新しく氏子になる儀式のお頭神事(とうしんじ)が行われます。その後、氏子はささら踊りを拝殿前で舞います。ささら踊りのメは、神楽「鈴の舞」となっています。

ささら踊りは、子どもだけで舞う踊りです。締太鼓の2人を先頭に2列で参道を進み、拝殿前の石畳の上で向き合ってササラとコキリコを両肩に当てて立ちます。踊り子は、太鼓の拍子に合わせて、体をひねり、背中を合わせ、左右を入れ替わったり軽快な舞いを披露します。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - 歴史が作りだす景観
 - ✓ 生活・文化が作りだす景観
 - 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原ICから県道31号線、
県道477号線へ。車で約20分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

じざけ けいかん 地酒づくりの景観

所在地：南あわじ市 榎列西川



榎列、西川地区の地酒づくり

榎列、西川地区では、昔ながらの行程で地酒づくりに取り組む酒造があります。

この酒造は、淡路島の南部で地酒づくりに取り組んでいた 10 軒が、志を 1 つに昭和 20 年に合併したものです。現在の酒銘は、創業当初にあった様々な銘柄のなかから、一番響きの良い名前が採用されたと伝えられています。

榎列、西川地区の地酒づくりの風景は、南あわじ市の生業を感じさせる景観です。

- 【景観の特徴】
- 自然がつくりだす景観
 - 歴史がつくりだす景観
 - ✓ 生活・文化がつくりだす景観
 - 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原 IC から県道 31 号線、
県道 477 号線へ。車で約 20 分。



地図出典：国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 地形図

えなみちく いらか なみ
榎列地区の 麓の波

所在地：南あわじ市 榎列



榎列地区の瓦葺きの住宅

淡路瓦は、淡路島が誇る伝統産業の1つで、三河、石州とともに三大瓦産地となっています。

瓦の生産は、国分寺跡（旧三原町）の発掘調査から、奈良時代に始まったと推測されています。産業としては、江戸時代に発展し、特に明治初期から一般民家への需要が急増しました。淡路瓦は、「いぶし瓦」が主流でしたが、昭和38年頃からは「陶器瓦」の生産が盛んになりました。

かつては、島内各所に淡路瓦葺きの集落があり「麓の波」の景観を望むことができましたが、生活様式の変化から淡路瓦葺きの建物も少なくなりました。そんななか、榎列地区には淡路瓦葺きの建物がよく残っており、「麓の波」を楽しむことができます。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - 歴史が作りだす景観
 - ✓ 生活・文化が作りだす景観
 - 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原ICから県道31号線、県道477号線へ。車で約20分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

なりあいでら なりあいがわ 成相寺と成相川

所在地：南あわじ市 八木馬廻



成相寺



成相寺 大門



境内のイブキ

成相寺は成相川の渓谷にある古刹で、淡路島に流された高野山の実弘上人が、高野山を模して仁治4年（1243）に建立したと伝えられています。島内で、唯一大門が現存している社寺であり、大門が本堂より高い位置にあることから、かつては大きな寺であったことがうかがえます。

成相寺には、実弘上人の祈願で大蛇の化身が大岩を砕き、村を水害から救った伝説があり、川辺には大蛇が腹で削り取ったと伝えられる「蛇磨（じゃすり）岩」があります。また、境内のイブキは樹齢300年を越えると推定され、市の天然記念物に指定されています。

成相川は、県下でも数少ない源氏ボタルの生息地で、ホタルの乱舞は初夏の風物詩となっています。境内周辺は自然環境保全地域に指定され、自然が豊かで静寂な渓谷の環境を現在も残しています。

- 【景観の特徴】
- ✓ 自然がつくりだす景観
 - ✓ 歴史がつくりだす景観
 - 生活・文化がつくりだす景観
 - 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道洲本 IC から国道 28 号を南下し、鳥居交差点を左へ。車で約 30 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図

なりあい
成相ダム

所在地：南あわじ市 八木馬廻



成相ダム

成相ダムは、平成 11 年に建設されたダムです。上流には、ダム建設以前に八木地区の灌漑に貢献した成合池堰堤があります。成相池堰堤は、昭和 12 年に着工、昭和 25 年に完成し八木地域の水源として地域の方に愛されてきました。

成相ダムの完成により、成相池堰堤は灌漑の役目を終えましたが、現在も安全上支障のない形状で保全されています。成相ダムを訪れると、八木地区の灌漑を支え続けている新旧両方のダムを望むことができます。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - 歴史が作りだす景観
 - ✓ 生活・文化が作りだす景観
 - 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原 IC 下車、県道 126 号線を東に進み、国道 28 号の鳥井交差点を右折し、成合寺方面へ。車で約 45 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図

さんばそう 三番叟

所在地：南あわじ市 八木



三番叟の奉納 出典：南あわじ市HP

三番叟は、事始めなどで神事として演じられる淡路人形浄瑠璃の演目で、「翁」「千歳」「三番叟」の三体の人形が天下泰平、長寿円満、息災延命、五穀豊穰を祈って舞います。江戸時代以降、島内の人形座は正月に1年間の興行の成功を祈って神社で奉納してきました。

この風習は1960年代にいったん途絶えましたが、平成9年に淡路人形浄瑠璃の発祥の地とされる三條八幡神社で復活し、同市の上田八幡神社でも演じられるようになりました。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - 歴史が作りだす景観
 - ✓ 生活・文化が作りだす景観
 - 新しく作りだす景観

【アクセス】

三條八幡神社へは、神戸淡路鳴門自動車道西淡三原ICから県道31号線、国道28号を左折。車で約30分。

上田八幡神社へは、神戸淡路鳴門自動車道西淡三原ICから県道31号線、国道28号を左折し、県道535号線へ。車で約40分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

やぎやかたあと 養宜館跡

所在地：南あわじ市 八木養宜中



養宜館外堀にあたる水田 出典：兵庫県立歴史博物館HP

養宜館跡は、県指定史跡で、室町時代に淡路守護細川氏の居館があった場所です。地域の方は、養宜館跡を大土居（おどい）と呼び、守護職の館として立派なものであったと伝えられています。

外堀の跡である帯状の水田から、鎌倉時代の築城形式を見て取れます。養宜館は、1340年に足利尊氏の命を受けた細川師氏（ほそかわもろうじ）が淡路島に入り、1519年に滅亡するまで館として利用されました。

養宜館跡の西方には、昭和2年に建立した「養宜館之碑」があり、現在も当時の面影を伺うことができます。

【景観の特徴】

- 自然がつくりだす景観
- ✓ 歴史がつくりだす景観
- 生活・文化がつくりだす景観
- 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原IC下車、県道477号線、県道478号線から、県道126号線を東に進み、中八木交差点を左折して北上。車で約25分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

やぎちく でんえんけいかん
八木地区の田園景観

所在地：南あわじ市 八木養宜上



八木地区の田園景観と農家

淡路島は、「御食国（みけつくに）」と呼ばれ、古来より朝廷へ食物を納めるほど、第1産業が盛んな地域です。

八木地区は、平坦な三原平野と温暖な瀬戸内気候を活かし、玉ねぎ、米、レタスの三毛作を行うほど農業が盛んです。季節風を避けるためのウバメガシの生垣（かっぺき）と淡路瓦葺きの農家、玉ねぎ小屋が三原平野に点在している景観は、淡路島らしい景観といえます。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - 歴史が作りだす景観
 - ✓ 生活・文化が作りだす景観
 - 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原IC下車、県道477号線、県道478号線から、県道126号線を東に進み、八木交差点を右折。車で約25分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

こくぶんじ あわじこくぶんじとうあと
国分寺（淡路国分寺塔跡）

所在地：南あわじ市 八木



国分寺跡 出典：財団法人淡路島くにうみ協会HP

国分寺は、聖武天皇が仏教の力によって国を治めるため、天平9年（737年）に国ごとにその建立を命じたことに始まります。

主な伽藍として、南大門・金堂・七重塔・講堂・鐘楼・僧房などがあったと伝えられていますが、現在も塔跡の中心礎石が残っています。中心礎石は、直径136cmの自然石に直径約75cmの円柱座が彫られています。中心礎石のほかに、礎石は5個ありますが、いずれも元あった位置からは移動しています。

国分寺塔跡は、昭和26年に国指定重要文化財に指定されています。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - ✓ 歴史が作りだす景観
 - 生活・文化が作りだす景観
 - 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原IC下車、県道31号線、県道477号線、県道478号線へ。車で約15分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

えびすじんじゃ とし いちまつり
戎神社 歳の市祭

所在地：南あわじ市 市市



歳の市まつり 出典：南あわじ市HP

えべっさんの愛称で親しまれる戎神社（事代主神社）では、昔は毎月6回、淡路中の商人が来て市が開かれ、エビス市として賑わっていました。

この市の風習を現代に受け継いだ12月28日の「歳の市まつり（エビス市）」には、市内外から大勢の人がつめかけ、商売繁盛や五穀豊穰の祈願、正月用品を買い求めて賑わいます。会場には屋台が立ち並び、夜遅くまで賑わいます。

【景観の特徴】

- 自然が作りだす景観
- ✓ 歴史が作りだす景観
- 生活・文化が作りだす景観
- 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原IC下車、県道31号線を南に、県道477号線を西に進む。車で約10分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

みはらがわ みはらちゅうがっこう
三原川と三原中学校

所在地：南あわじ市 市十一ヶ所



「入学式の午後」南あわじ市 向泉氏撮影（第2回淡路島景観フォトコンテスト 応募作品）

三原中学校は、平成16年に建替えられたモダンな校舎であり、市地区のランドマークとなっています。

校舎自体も、ガラス張りの吹き抜けの玄関ホールや木材を多用するなど、三原平野の景観に配慮したデザインとなっています。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - 歴史が作りだす景観
 - ✓ 生活・文化が作りだす景観
 - ✓ 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原IC下車、県道31号線、県道477号線、県道478号線へ。車で約15分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

いちふくながちく はなめいしよ
市福永地区 花の名所づくり



所在地：南あわじ市 市福永



南あわじ市 賀集繁功園氏撮影（第1回淡路島景観フォトコンテスト 応募作品）

平成 20 年に、財団法人淡路花博記念事業協会「淡路島花の名所づくり」の事業一環として整備された梅園です。地区内の休耕田（60a）に梅樹 150 本を植栽しています。

保育所の収穫祭、梅の花を愛でる会など、梅を通して地域の方が憩える場所を提供されています。

- 【景観の特徴】
- 自然がつくりだす景観
 - 歴史がつくりだす景観
 - 生活・文化がつくりだす景観
 - ✓ 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原IC下車し、県道 126 号線、県道 66 号線、県道 477 号線へ。車で約 15 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図

あわじしちふくじん かくじゅうじ
淡路七福神 覚住寺

所在地：南あわじ市 神代社家



覚住寺 大門 出典：一般社団法人淡路島観光協会HP

淡路島の風土のなか、七福神信仰は素朴で厚い信仰を集めてきました。淡路七福神霊場の1つである覚住寺には、毘沙門天が祀られています。

推古天皇の頃（562）に聖徳太子の勅詔により創建されたと伝えられる覚住寺は、淡路島でも最古の寺院の一つです。往時は、七堂伽藍を備えた広大な寺領に塔頭も多くつくられ、その威容を誇っていたと伝えられています。

【景観の特徴】

- 自然が作りだす景観
- ✓ 歴史が作りだす景観
- 生活・文化が作りだす景観
- 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原IC下車、県道31号線から県道477号線、国道28号、県道535号線へ。車で約30分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

こうだはちまんじんじゃ まつ
上田八幡神社の祭り

所在地：南あわじ市 八木寺内



上田八幡神社



境内の石碑



境内の樹木

上田八幡神社では、毎年5月4日に近隣の10地区から14台ものだんじりが集まり、盛大に春祭りが開催されます。

この祭りの名物は、大きな掛け声と共にだんじりを地面に落とす「投げだんじり」です。拍子木に合わせて高く差し上げられ肩に乗せられただんじりは、前後左右に回したり走ったりして、最後に大きな掛け声に合わせて高く投げ上げられ、傾きもせず着地します。

淡路島のだんじりの中でも、この「投げだんじり」は特に珍しく、大勢の観光客が詰めかけます。

【景観の特徴】

自然がつくりだす景観

歴史がつくりだす景観

✓ 生活・文化がつくりだす景観

新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原IC下車、県道31号線から県道477号線、国道28号、県道535号線へ。車で約30分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

じんたいちく ようすいる ぶんすい
神代地区 用水路の分水

所在地：南あわじ市 神代浦壁



用水路の円筒分水工

淡路島は、「御食国（みけつくに）」として豊かな第1次産業を築いてきた一方で、水源となる標高の高い山がないため、県下で最も多くのため池をつくるなど、農業用水の確保に努めてきた歴史があります。

神代地区の分水工は、大正7（1918）年に造られ、現在も水路や円筒分水工が各所にて活躍しています。分水工により、仕切壁間の距離に比例した水量に分けられ、各水路に供給される合理的な分水の仕組みとなっています。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - 歴史が作りだす景観
 - ✓ 生活・文化が作りだす景観
 - 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原IC下車、県道31号線から県道477号線、国道28号、県道535号線へ。車で約30分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

き び こくさいだいがく なが みはらへいや
 吉備国際大学から眺める三原平野



所在地：南あわじ市 志知



吉備国際大学のキャンパスから望む三原平野

志知地区には、平成 25 年度に吉備国際大学地域創成農学部が開設されます。淡路島という日本有数の農山地に立地する特性を活かして、現場密着型の人材育成が図られます。

キャンパス予定地は、県立志知高校跡で三原平野の高台にあることから、三原平野に広がる豊かな田園景観のなか、農学を学べる絶好の環境が提供されます。

- 【景観の特徴】
- ✓ 自然が作り出す景観
 - 歴史が作り出す景観
 - 生活・文化が作り出す景観
 - ✓ 新しく作り出す景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原 IC から県道 31 号線へ。車で約 10 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図

しちじょうあと みはらしちちく でんえんけいかん
志知城跡と三原志知地区の田園景観



所在地：南あわじ市 志知



志知城跡と田園景観

志知地区には、鎌倉時代に築かれた館跡「志知城跡」があります。

志知城は、鎌倉時代に豪族菅道忠により築られました。室町時代に菅氏が改名した野口氏は、天正9年（1581）に羽柴秀吉の侵攻で志知城を開城し、淡路島を去りました。その後、志知城に加藤嘉明を配し淡路水軍を束ねた時代もありましたが、文禄4年（1595）加藤嘉明が伊予松前に移り豊臣家の直轄領になったのを機に廃城となりました。

志知城跡は、現在も堀に水をたたえ、三原平野の田園のなか志知地区の歴史と文化を伝えています。

【景観の特徴】

- 自然が作りだす景観
- ✓ 歴史が作りだす景観
- ✓ 生活・文化が作りだす景観
- 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原ICから県道31号線を南下。車で約10分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

おおいじんじゃ みはらしちちく でんえんけいかん
大炊神社と三原志知地区の田園景観

所在地：南あわじ市 志知



大炊神社 本殿 出典：財団法人淡路島くにうみ協会

大炊神社は、淳仁天皇を祀っている神社です。

淳仁天皇は、天武天皇の皇子・舎人親王の第7王子で、758年に即位しました。しかしながら、光明皇太后の死後、恵美押勝の乱に連座して、764年に廃帝として淡路島に流され、翌年、33歳の若さで亡くなられています。

大炊神社には、淳仁天皇の墓地と伝わる天皇塚もあり、周辺の田園とともに志知地区の歴史と文化を伝えています。

【景観の特徴】

- 自然が作りだす景観
- ✓ 歴史が作りだす景観
- ✓ 生活・文化が作りだす景観
- 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原 IC から県道 31 号線へ。車で約 15 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図

おおつな ひ つな あ 大綱引き（綱合わせ）

所在地：南あわじ市 福良乙



大綱引き 出典：南あわじ市 HP



西方の控え場
出典：南あわじ市 HP

大綱引きは、南あわじ市福良地区の慈眼寺周辺で行なわれている戦国時代から伝わる伝統行事です。鉢巻きと締め込み姿の男たちが東軍と西軍に分かれ、長さ約500メートル、太さ20センチの綱を引き合い、福良の商店街は歓声に包まれます。

この綱引きは、永禄3年（1560）に豊作、大漁を祈願して始まったと伝えられ、東軍が勝てば「豊作、商売繁盛」、西軍が勝てば「大漁」になるとされています。第2次世界大戦下で物資不足などを理由に途絶えましたが、地元の有志らがもう一度地域に活気を取り戻したいと平成8年（1996）に復活させました。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - 歴史が作りだす景観
 - ✓ 生活・文化が作りだす景観
 - 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道淡路南ICから、県道25号線を南下し、車で20分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

ふくらはちまんじんじゃ おんなみこし
福良八幡神社と女神輿

所在地：南あわじ市 福良甲



福良八幡神社の女神輿 出典：一般社団法人淡路島観光協会HP



福良八幡神社 境内



福良八幡神社 参道石段

福良八幡神社は、福良湾を見下ろす丘の上に建つ神社で、1600年に本殿が再建されたことが棟札から分かっています。県指定重要文化財である本殿は三間社流造で、もとは桃山風に彩色されていたといわれています。

毎年10月第2日曜日に秋の例祭が行われ、厄除け祈願に福良地区の数え33歳になる女性が、華やかに神輿を担いで街中を練り歩きます。例祭は、神社の名前との語呂合わせで「三三祈（みさき）祭」ともいわれ、淡路島では唯一の大人による女神輿とされています。当日は、「チョーサジャ、チョーサジャ」という威勢のよい、女性の掛け声が街中に響きます。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - ✓ 歴史が作りだす景観
 - ✓ 生活・文化が作りだす景観
 - 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道淡路島南IC下車、県道25号を北西に進む。車で約10分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

なみ かせきそう れんこん
波の化石層「漣痕」

所在地：南あわじ市 福良



県道 25 号線から望む福良湾と漣痕

南あわじ市では、海底の波跡の化石「漣痕」が休暇村南淡路の敷地内と吹上浜の 2 ヲ所で発見されています。現地では、波状の凸凹地形が見られます。

南あわじ市で確認された「漣痕」は、約 7000 万年前中生代白亜紀のものと言われています。白亜紀は、アンモナイトや恐竜が繁栄した時代であり、この波型地形は当時の波の様子を現代に伝える貴重な資源です。

- 【景観の特徴】 ✓ 自然が作りだす景観
 歴史が作りだす景観
 生活・文化が作りだす景観
 新しく作りだす景観

【アクセス】

休暇村南淡路へは、神戸淡路鳴門自動車道淡路南 IC から県道 25 号線へ、車で約 10 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図

しおなりの郷

さと

所在地：南あわじ市 福良・阿那賀



しおなりの郷は、淡路島南IC直のオートキャンプ場で、瀬戸内海に浮かぶ大鳴門橋を眼下にのぞめる絶好の位置にあることから、ひょうごの森百選にも選ばれています。

オートキャンプ場には、温水シャワーや炊事棟などの施設も充実しており、鳴門海峡に面する豊かな自然環境のなか、家族で気軽にアウトドアを楽しむことができる場を提供しています。

- 【景観の特徴】
- ✓ 自然が作り出す景観
 - 歴史が作り出す景観
 - 生活・文化が作り出す景観
 - 新しく作り出す景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道淡路島南ICから県道25号線を左折。車で約5分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

うずしおの郷と南 あわじ温泉郷

所在地：南あわじ市 福良



南あわじ温泉郷 出典：一般社団法人淡路島観光協会HP

淡路島では、泉源の違う温泉が 11 箇所も湧き出ており、特に島南部に集中しています。

南あわじ温泉郷には、サンライズ温泉、三原温泉、うずしお温泉、筒井温泉、南淡温泉、潮崎温泉 6 箇所の泉源があり、南あわじ市のゆったりとした景観の中で、それぞれ特色の異なる効能を楽しむことができます。

南あわじ市福良の新たな観光拠点「うずしおの郷」では、南あわじ温泉郷をPRする「足湯・うずのゆ」などが併設され、観光客で賑わっています。

- 【景観の特徴】
- 自然がつくりだす景観
 - 歴史がつくりだす景観
 - 生活・文化がつくりだす景観
 - ✓ 新しくつくりだす景観

【アクセス】

うずしおの郷へは、神戸淡路鳴門自動車道淡路南ICを下車。県道 25 号線から国道 28 号へ。車で 15 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図

ふくらこうつなみぼうさい

福良港津波防災ステーション

所在地：南あわじ市 福良



福良港津波防災ステーション 出典：福良港津波防災ステーションHP

福良港は、東南海・南海地震が発生した場合、津波により県内最大の被害が発生すると予測されています。この津波の被害を低減するための施設として、津波防災ステーションが整備されました。

渦潮の形をイメージして造られた特徴的な外観は、「うずまる」という愛称と一緒に、福良地区ならではのシンボルとなりそうです。

津波防災ステーション内には、防災学習室もあり、「津波の力を知る」「日頃から津波に備える」というテーマのもと、映像や体験装置を用いた展示など、津波に対する防災学習の場として活用されています。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - 歴史が作りだす景観
 - 生活・文化が作りだす景観
 - ✓ 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道淡路南ICを下車。県道25号線から国道28号へ。車で15分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

ふくらけいぶはしゅっしょ 福良警部派出所

所在地：南あわじ市 福良甲



福良警部派出所



正面玄関の意匠



福良警部派出所 正面

福良警部派出所は、昭和3年に建設された福良警察署の庁舎です。

福良地区は、淡路島南部の玄関口として栄え、近代化が進むなかで銀行や公共施設などの近代建築が建てられ、福良警部派出所もその1つです。警察署庁舎であるため、派手な意匠はありませんが、昭和初期の庁舎らしく玄関周りの装飾は凝っています。

福良警部派出所は、福良地区の近代化を感じさせる建築景観です。

【景観の特徴】

自然がつくりだす景観

歴史がつくりだす景観

✓ 生活・文化がつくりだす景観

新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道淡路島南ICから県道25号線を南下。車で約20分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

ふくらわん せ ふくらしょうがっこう
福良湾を背にした福良小学校

所在地：南あわじ市 福良乙



福良小学校と福良湾 出典：福良小学校HP

福良小学校は、南辺寺山の麓の高台に位置し、校舎からは福良湾を一望することができます。高台にある福良小学校は、福良地区の方の避難場所として、地域の防災拠点としての役割も担っています。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - 歴史が作りだす景観
 - ✓ 生活・文化が作りだす景観
 - ✓ 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道淡路島南ICから県道25号線を南下。車で約20分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

かしゅうはちまんじんじゃ
賀集八幡神社

所在地：南あわじ市 賀集八幡



「桜参道」洲本市 宗白氏撮影（第1回淡路島景観フォトコンテスト 応募作品）

賀集八幡神社は、南辺寺山の麓に鎮座し、1340年に足利尊氏の命により阿波から入島した細川師氏（ほそかわもろうじ）が神前で戦勝を祈祷したと伝えられています。三間社流造の本殿は、1631年に藩主松平忠鎮（まつだいらただしず）が建立し、県指定文化財に指定されています。

賀集八幡神社では、毎年4月第2日曜日に春祭りがとりおこなわれます。春祭りでは、十二台のだんじりがだんじり唄を奉納するため、桜並木の参道をとおり宮入します。その勇壮な姿を見ようと多くの参拝者が訪れます。

【景観の特徴】

自然がつくりだす景観

✓ 歴史がつくりだす景観

生活・文化がつくりだす景観

新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原IC下車、県道31号線を南下。車で約15分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

なんべいじ さんちょう てんぼう
 南辺寺と山頂からの展望

所在地：南あわじ市 賀集八幡



南辺寺と南辺寺山頂からの展望

南辺寺山（なんべっさん）は、淡路島の南端に位置する標高 273m の山です。頂上には展望台もあり、福良湾や三原平野のパノラマ景観を楽しむことができます。

南辺寺山の山頂付近にある南辺寺では、島内各所で受け継がれている風習の団子転がしが現在もおこなわれています。団子転がしとは、亡くなった方が鬼にとりつかれることなく極楽へ行けるよう、山の谷を背にして団子（おにぎり）を放り投げて鬼にお供えをする行事です。

- 【景観の特徴】
- ✓ 自然が作り出す景観
 - ✓ 歴史が作り出す景観
 - 生活・文化が作り出す景観
 - 新しく作り出す景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原 IC 下車、県道 31 号線を南下。県道 76 号線に入る手前を右折し、北西に進む。車で約 40 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図

あわじしちふくじん ごこくじ
淡路七福神 護国寺

所在地：南あわじ市 賀集八幡



護国寺 本堂 出典：一般社団法人淡路島観光協会HP

淡路島の風土のなか、七福神信仰は素朴で厚い信仰を集めてきました。淡路七福神霊場の1つである護国寺には、布袋尊が祀られています。

護国寺は、行教上人が開創された由緒ある古刹で、本尊の大日如来坐像は国指定重要文化財に指定されています。行教上人は、大和大安寺の僧で三輪宗及び真言宗を学び、869年に豊前宇佐八幡宮に参詣した後、2年余りを護国寺で過ごしたと伝えられています。

【景観の特徴】

- 自然がつくりだす景観
- ✓ 歴史がつくりだす景観
- 生活・文化がつくりだす景観
- 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原IC下車、県道31号線を南下。車で約20分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

あわじしちふくじん まんぷくじ
淡路七福神 万福寺

所在地：南あわじ市 賀集鍛冶屋



万福寺の境内 出典：一般社団法人淡路島観光協会HP

淡路島の風土のなか、七福神信仰は素朴で厚い信仰を集めてきました。淡路七福神霊場の1つである万福寺には、恵比酒神が祀られています。

万福寺は、770年から781年にかけて、淳仁天皇の御陵と御母当麻夫人の墓守を勤める僧侶の宿坊として創草されました。1394年以降に、賀集地区に館を構えた賀集氏がお堂を再興し、御陵の安穩と民衆の安泰を祈念する寺院として今日に継承されてきました。特に、大日如来像が二対合祀する須弥壇は、非常に貴重な様式です。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - ✓ 歴史が作りだす景観
 - 生活・文化が作りだす景観
 - 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道淡路島南IC下車、県道31号線、県道76号線を南下。車で約20分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

た な かけじゅうたくしゅおく
田中家住宅主屋

所在地：南あわじ市 賀集立川瀬



主屋 出典：文化庁

田中家住宅主屋は、明治 14 年(1881)に建てられた木造平屋・瓦葺の建物で、平成 19 年(2007)に国登録有形文化財に指定されました。

建築面積は 305 m²で、建築後、大正 11 年(1922)、大正 15 年(1926)から昭和 63 年(1988)にかけて増改築が行われました。

主屋は、屋敷中央に南に面して立てられ、入母屋屋根の本瓦葺でつし 2 階となっています。主屋の東部を土間、西部を床上部、南西部の上座敷と北西部の居間との間に中廊下を通していることが特徴です。増築部には、仏間や茶室などがあり、繊細な造作の数奇屋風となっています。

【景観の特徴】

自然がつくりだす景観

歴史がつくりだす景観

✓ 生活・文化がつくりだす景観

新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原 IC から、県道 31 号線、国道 28 号を南下し、賀集交差点を右折。車で、20 分。



地図出典：国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 地形図

やくおうじ おおかがみもちはこ
薬王寺の大鏡餅運び

所在地：南あわじ市 北阿万筒井



「大鏡餅運び」兵庫県姫路市 松田庄司氏撮影（第1回淡路島景観フォトコンテスト 応募作品）

薬王寺は、寺伝によると、和銅元年（708）名僧・行基が開基した寺となっています。縁日が毎月12日に開催され、近隣では「十二薬師」と親しまれています。

毎年1月12日には、「厄除け祈禱大祭」が催され、その余興として大鏡餅運びがとりおこなわれます。大鏡餅は、台座と合わせて総重量約150kgもあり、力自慢が大鏡餅を腹に抱えて運び、歩く距離を競う姿は薬王寺の恒例行事となっています。

- 【景観の特徴】
- 自然がつくりだす景観
 - 歴史がつくりだす景観
 - ✓ 生活・文化がつくりだす景観
 - 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原IC下車、県道31号線を南下、八幡交差点で県道76号線に入り、新田中交差点を左折。車で約25分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

あ ま ふ き あ げ ち く ま ち な
阿万吹上地区の町並み

所在地：南あわじ市 阿万吹上町



阿万吹上地区の町並み

阿万吹上地区では、石積み塀が良く残り独特の景観をつくりだしています。

阿万吹上地区の近くを流れる本庄川水系では、江戸時代後期から明治前期にかけて開墾が進められました。開墾の際に出た大量の石を荷馬車で集落まで持ち帰り、社寺や民家の敷地を囲う塀に利用したと伝えられています。

阿万吹上地区の石積み塀の通りは、淡路島の風土に適した素晴らしい景観です。

【景観の特徴】

自然がつくりだす景観

歴史がつくりだす景観

✓ 生活・文化がつくりだす景観

新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原ICから、県道31号線、国道28号、県道25号線を南下。車で約40分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

おおみやま み ひゃっけんぼり

大見山から見た百間堀、レタスのビニールハウス

所在地：南あわじ市 阿万



「田園」淡路市 谷和樹氏撮影（第2回淡路島景観フォトコンテスト 最優秀賞受賞作品）

大見山は、阿万地区に位置する標高約 150mの小高い山です。大見山の頂上からは、三原平野に広がる田園、百間堀、吹上浜、紀伊水道を一望することができます。

百間堀とは、農業用水を確保するための水路として阿万地区の農を支えてきました。河川から農業用水が確保できない淡路島にとって、百間堀は、ため池とともに、重要な役割を果たしています。

百間堀に支えられ豊かな農業を営んできた阿万地域は、米づくりとともに、玉ネギ、レタスの生産が盛んです。特に、冬、レタスのビニールハウスが田園一体に広がる景観は、「御食国（みけつくに）」である淡路島の豊かさを感じさせます。

- 【景観の特徴】
- ✓ 自然がつくりだす景観
 - 歴史がつくりだす景観
 - ✓ 生活・文化がつくりだす景観
 - 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道淡路島南 IC 下車、県道 25 号を南下。車で約 30 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図

オニバスの^{ぐんせいち}群生地

所在地：南あわじ市 阿万



オニバス 出典：兵庫県資料

オニバスは、世界で最も大きくなる一年草の水草です。夏には、直径2 m程度の葉を5枚ほど広げ、50個程度の花をつけます。

淡路島は、200万年前まではそのほとんどが湖に沈んでおり、オニバスは湖の浅瀬に葉を広げていたと考えられています。その後、気候の変動により現在の淡路島が形づくられるなか、オニバスは沼や川に閉じ込められ、平成8年まで旧南淡町阿万地区に自生していました。

河川への塩分の侵入などにより、オニバスは姿を消してしまいましたが、最後の種子を大切に守り、現在では洲本文化資料館前の堀でその後継種が育てられています。

- 【景観の特徴】
- ✓ 自然がつくりだす景観
 - 歴史がつくりだす景観
 - 生活・文化がつくりだす景観
 - 新しくつくりだす景観

【アクセス】

淡路文化資料館へは、神戸淡路鳴門自動車道洲本ICから、国道28号、県道76号線へ。車で約20分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

あまかみまちこうかいどうほか
阿万上町公会堂他

所在地：南あわじ市 阿万上町



だんじり小屋と半鐘台



たまねぎ畑と半鐘台

阿万上町公会堂他は、島内にもわずかしか残っていない半鐘台、だんじり小屋、地域の伝統文化を継承する場である公会堂が地域特有の景観をつくりだしていると評価され、平成 19 年（2007）に兵庫県景観形成重要建築物に指定されました。

公会堂は、敷地面積 274 m²の木造平屋建てで、昭和 3 年（1928）に建てられました。また、火事を知らせるための高さ約 12mの半鐘台は、70 年前に設置され、昭和 45 年（1970）ごろに現在の場所に移設されました。この際に屯所も設けられました。

阿万上町公会堂他は、現在も地域の方の活動の場として親しまれています。

【景観の特徴】

自然がつくりだす景観

歴史がつくりだす景観

✓ 生活・文化がつくりだす景観

新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原 IC から県道 31 号線、県道 76 号へ。車で約 30 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図

かめおかはちまんじんじゃ あまふりゅうおどりおおどりこおどり
亀岡八幡神社と阿万風流踊 大踊小躍

所在地：南あわじ市 阿万吹上町



亀岡八幡神社 境内 出典：一般社団法人淡路島観光協会HP



風流踊り
 出典：南あわじ市HP



風流踊り
 出典：淡路人形浄瑠璃公式
 ウェブサイトHP

亀岡八幡宮は、古くから阿万地区に鎮座していた松浦高良神社へ石清水八幡宮より勧請され、1232年に現在の場所に鎮座しています。亀岡八幡神社は、由緒ある歴史を誇り、数多い神事が伝承されています。

特に、風流踊りは、日照り続きで困った村人が雨乞いをし、願いがかなった後、「願解き」として、雨への感謝、五穀豊穰・郷土繁栄の祈りと感謝をこめて奉納されています。風流踊りは、多額の経費を要するために「百石踊」ともいわれました。国の重要無形民俗文化財に指定されています。

- 【景観の特徴】
- 自然がつくりだす景観
 - 歴史がつくりだす景観
 - ✓ 生活・文化がつくりだす景観
 - 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道淡路ICから国道28号へ、車で約5分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

あまちく いしづ
阿万地区の石積み

所在地：南あわじ市 阿万



「阿万の石積み塀」兵庫県神戸市 中島秀幸氏撮影 (第2回淡路島景観フォトコンテスト 優秀賞受賞作品)

阿万地区では、石積み塀が良く残り独特の景観をつくりだしています。

阿万地区の近くを流れる本庄川水系では、江戸時代後期から明治前期にかけて開墾が進められました。開墾の際に出た大量の石を荷馬車で集落まで持ち帰り、社寺や民家の敷地を囲う塀に利用したと伝えられています。阿万地区にある萬勝寺には、明治34年、寺の塀を石で築いたとの記録も残っています。

阿万地区の石積み塀は、淡路島の風土に適した素晴らしい景観です。

- 【景観の特徴】
- 自然がつくりだす景観
 - 歴史がつくりだす景観
 - ✓ 生活・文化がつくりだす景観
 - 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原ICから県道31号線、県道76号線を南下。車で約40分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

うみ こうえん あま 海づり公園メガフロート（阿万）



所在地：南あわじ市 阿万吹上町



メガフロート 出典：一般社団法人淡路島観光協会HP

阿万地区には、南あわじ市浮体式多目的公園、別名「海釣り公園メガフロート」があります。福良沖に浮かぶ海釣り公園で、季節を問わず様々な魚を釣ることができます。海釣り公園は、福良湾と鳴門大橋を一望できる絶景ポイントであるとともに、子どもでも安全に釣りができることから、四季を通じて多くの観光客で賑わいます。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - 歴史が作りだす景観
 - 生活・文化が作りだす景観
 - ✓ 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道淡路島南ICから県道25号線を南下。車で約30分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

あまちく いらか なみ
阿万地区の 蕨の波

所在地：南あわじ市 阿万



淡路瓦葺きの玉ねぎ小屋

淡路瓦は、淡路島が誇る伝統産業の1つで、三河、石州とともに三大瓦産地となっています。

瓦の生産は、国分寺跡（旧三原町）の発掘調査から、奈良時代に始まったと推測されています。産業としては、江戸時代に発展し、特に明治初期から一般民家への需要が急増しました。淡路瓦は、「いぶし瓦」が主流でしたが、昭和38年頃からは「陶器瓦」の生産が盛んになりました。

かつては、島内各所に淡路瓦葺きの集落があり「蕨の波」の景観を望むことができましたが、生活様式の変化から淡路瓦葺きの建物も少なくなりました。そんななか、阿万地区には淡路瓦葺きの家屋だけでなく、田園に淡路瓦葺きの玉ねぎ小屋が残っており、「蕨の波」を楽しむことができます。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - 歴史が作りだす景観
 - ✓ 生活・文化が作りだす景観
 - 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原ICから県道31号線、県道76号線を南下。車で約40分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

あまちく かわらこうじょう
阿万地区の瓦工場

所在地：南あわじ市 阿万



阿万地区の瓦工場

淡路瓦は、淡路島が誇る伝統産業の1つで、三河、石州とともに三大瓦産地となっています。

瓦の生産は、国分寺跡（旧三原町）の発掘調査から、奈良時代に始まったと推測されています。産業としては、江戸時代に発展し、特に明治初期から一般民家への需要が急増しました。淡路瓦は、「いぶし瓦」が主流でしたが、昭和38年頃からは「陶器瓦」の生産が盛んになりました。

旧西淡町をはじめ、現在も島内各所に瓦工場があり、阿万地区もその1つです。地区内に瓦工場が点在する町並みからは、伝統産業「淡路瓦」を生業としてきた景観を感じることができます。

【景観の特徴】

自然がつくりだす景観

歴史がつくりだす景観

✓ 生活・文化がつくりだす景観

新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原ICから県道31号線、
県道76号線を南下。車で約40分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図

あまちく でんえんけいかん
阿万地区の田園景観

所在地：南あわじ市 阿万



阿万地区の田園とたまねぎ小屋

淡路島は、「御食国（みけつくに）」と呼ばれ、古来より朝廷へ食物を納めるほど、第1産業が盛んな地域です。

阿万地区は、淡路島南端の大見山と諭鶴羽山の麓に位置し、紀伊水道に面した温暖な自然環境のなか、米づくりをはじめとした農業が現在も盛んに行われています。地区内の田園には、淡路瓦葺きの玉ねぎ小屋が現在も残っており、淡路島らしい田園景観のアクセントとなっています。

- 【景観の特徴】
- 自然がつくりだす景観
 - 歴史がつくりだす景観
 - ✓ 生活・文化がつくりだす景観
 - 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原 IC から県道 31 号線、
県道 76 号線を南下。車で約 40 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図

なだちく いしづみ ようへき
灘地区 石積の擁壁



所在地：南あわじ市 灘



灘地区 石積みの擁壁 出典：兵庫県資料

灘地区は、紀伊水道に沿って諭鶴羽山がせり出し、集落が急峻な地形に沿って建てられています。敷地には、昔から玉石積みの擁壁で支えられており、これらが灘地区の景観を特徴づける要素のひとつになっています。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - 歴史が作りだす景観
 - ✓ 生活・文化が作りだす景観
 - 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原 IC から県道 31 号線、県道 76 号線へ。車で約 1 時間。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図

ぬしまちくまつり 沼島地区の祭り

所在地：南あわじ市 沼島



船着場で颯爽とかけられるだんじり



神社前に集うだんじりと神輿



沼島八幡神社

沼島八幡神社では、海上安全と豊漁を祈願し、毎年5月3日、4日に春祭りが行われます。祭りが最高潮に達したとき、だんじりが海へ飛び込む沼島水軍を彷彿させる勇壮な祭りです。以前は、だんじりや神輿が通ることができる道が無く、ほとんどを海の中をかいたため、旧暦5月3日、4日の大潮の際に行われていました。

沼島八幡神社は、永享8年（1436）に梶原俊景が創建したと伝えられ、かつては水軍の拠点でした。境内には、昔から海を生活のよりどころとしてきた沼島の生活を伺うことができる絵馬や、全国的にも珍しい逆羅針盤が天井に奉納されています。

【景観の特徴】

自然が作りだす景観

歴史が作りだす景観

✓ 生活・文化が作りだす景観

新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原ICから、県道31号線、県道76号線を南下し、土生港へ。土生港から船で5分、沼島港。沼島港から徒歩で5分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図